

新型コロナウイルス流行下での研修医・専攻医教育

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、整形外科においても外来受診の抑制や待機手術の延期を余儀なくされた施設も多いことと思います。さらに専門研修病院においては、この状況下でいかに若い医師の教育を行うかが大きな問題となりつつあります。今回、専門医・専攻医管理委員会では新型コロナウイルス流行下での医学教育についての方策を話し合いました。会員の皆さんに紹介させていただきます。参考になれば幸いです。

ともにこの事態を乗り切り、日本の整形外科診療・教育・研究を守り抜きましょう。

専門医・専攻医管理委員会

中島康晴 渡辺 雅彦 阿部博男 石島旨章 内尾 祐司 大川 淳 須藤啓広 原田 繁
三上靖夫 三上容司 宮原寿明

1. 自己紹介

4月に新しい研修医・専攻医が来たものの、カンファレンスも歓迎会も中止になってしまい、自己紹介もできないことが少なくなかったと思います。新しい先生には自己紹介スライドを作ってもらい、メールで配布することからコミュニケーションを始めた施設もありました。

2. ミニ講義

(1) オンライン講義

多くの研修会が中止となる中でも、研修医・専攻医が必要な知識を身につける機会をつくる必要があります。ZoomやGoogle meetなどを活用したオンライン講義は3密を防ぎながら、双方のやり取りが可能な点で推奨されます。すでに会議や学生講義でも多く用いられています。

画面共有の機能を用いて講義スライドや画像を全員で共有することが可能ですし、受講生の顔を確認しながら質疑応答を行うこともできます。既に実施されている施設のプログラムも参照させていただきました。

Zoom: <https://zoom.us>

Google meet: <https://gsuite.google.co.jp/intl/ja/products/meet/>

また、日整会では過去の専門医試験に用いたビデオ問題（すでに10年以上経過したもの）を教育教材として提供する準備を進めています。提供方法が決まりましたら、詳細をお知らせします。



整形外科医の礎を築く

専門的でわかりやすい講義を分野別に行い、
音読の診療に必要な知識を学んでいただきます。
ご興味のある初期研修医の先生も是非ご参加ください。

講義内容のご紹介

各講席は、18時～配信開始し、30分程度を予定しています。

日付	講師	講義内容
4月13日(月)	中山 ロバート	骨髄瘍
4月15日(水)	鈴木 拓	小児肘関節外傷の画像診断のコツとピットフォール
4月17日(金)	小林 秀	膝関節の画像と診察
4月20日(月)	木村 洋明	手の診察
4月22日(水)	岡田 美次朗	脊椎・脊椎診察法
4月24日(金)	宇田川 和彦	四肢外傷患者の診察の仕方
4月27日(月)	松村 昇	肩の診察と画像診断
4月28日(火)	大矢 昭仁	股関節の診断と治療
4月30日(木)	浅野 尚文	軟部腫瘍の診断と治療
5月1日(金)	辻 収彦	脊椎脊椎画像診断

● ご視聴を希望する研修医の先生は専攻医担当の名義までご連絡ください。
● 講義はオンラインで配信します。事前にアクセスするURLをお送りしますので、視聴の際はインターネットが使える環境についてください。



オンライン講義時の質疑応答の様子

(2) 3密を避けた従来型のミニ講義

小人数の受講生であれば従来型の講義も選択肢の1つです。十分な広さで換気できる、すなわち3密を回避できる会議室であれば、対面式の講義も考えていいのではないのでしょうか。また、オンライン講義を併用することで、院外の受講生が参加することも可能です。



3密を避けた従来型のミニ講義

2. 診療グループ別の症例検討、回診

大学病院のような人数の多い施設では、整形外科医全員が集まるカンファレンスは難しいと思われるかもしれません。対策として、研修医・専攻医をそれぞれの診療グループあるいは教官に割り当て、教育を担当させている大学もあります。専攻医をグループ内での症例検討や回診に参加させることによって、講義よりも深く教育することができます。また、この機会を通じて学会発表に結び付ける効果も期待できます。

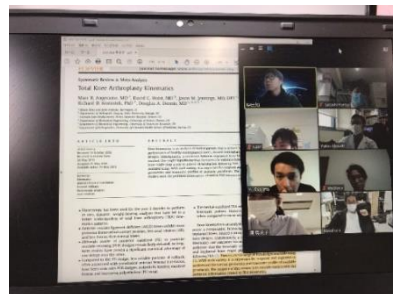


小人数、グループ別の症例検討

「症例数が減って時間的余裕ができたため、これまでより突っ込んだ教育・指導ができる」との指導医の声もありました。

3. オンライン抄読会

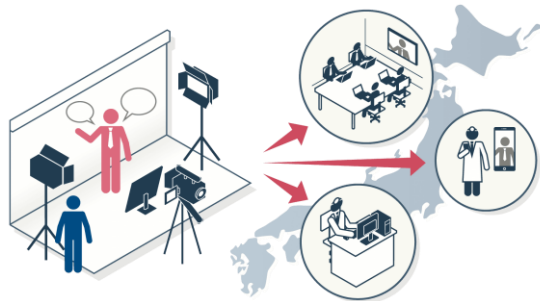
抄読会を通じて、研修医・専攻医に英文論文を読む習慣をつけさせることは重要なことです。集合しなくても、オンライン講義と同様に「画面共有」すれば、強調したい部分を確認しながら進めることができます。



Zoomを用いた抄読会

4. オンライン講演会

多くの講演会が中止となる中、オンラインによる講演会に対するニーズも高まっています。演者はスタジオなどで講演し、視聴者はインターネットを介してライブで講演を聞くことができます。



オンライン講演会のイメージ

(M3 digital communicationのHPより許可を得て引用)